

司法は「正義の味方」と考えていた私

「ワ——————」と叫びたい

原田典子

「周防正行」氏は映画監督なのに、人が人を裁くということ～「強すぎる検察」の問題点～と言ったタイトルで、どのようなお話をされるのか、非常に興味・関心を持って聴講いたしました。

すごいお話でした。聞き終えて、胸のもやもやが膨らみ怒りに近い物が消えません。

テレビや、映画で、検察と裁判官と警察はグルになっている事を良く観ます。

今日の話で、一番強いのが「検察」という事を知りました。何故、そうなっているのかも、今日の話で何となくですが、視えました。

それで良いんでしょうか？

メディアの報道はどうなっているんでしょうか？

メディアの報道担当の方々も、周防監督の様にかなり勉強されている方と思っています。にも関わらず、今日聞いたような内容を報道特集で取り上げたメディアがあるんでしょうか？

司法に対して、国民は「正義の味方」と考えていると思います。私もそうでした。

司法側に、理不尽な扱いを受けた時に、頼るのは「司法」ですよね。その拠り所が「全く信用できない所」だったなんて、日本にがっかりです。

最後に、ゆきさんが「私たちにできる事は」と聞かれて、署名・寄付で協力して下さいと周防監督が言われましたが、本当にそれしかできないんですね。

それも、悲しいです。

法を、仕組みを、制度を変える事は出来ないんでしょうか？

せめて、裁判官がもっと力がもてて、自律できて、本当の真実を追求できる仕組みは無いんでしょうか？

せめて、「起訴独占主義」を、起訴の前に他の何かが入る制度ができるとか、変わらないんでしょうか。

胸のもやもやがどんどん膨らみます。

「それでもボクはやっていない」を観てみます。

それから、また、考えてみます。